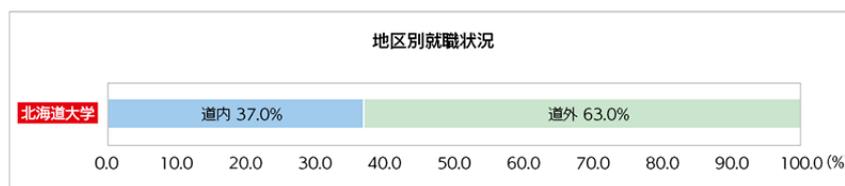


「アートを活かした魅力的な街づくり その先に見える産業の創出と移住の促進」

1. はじめに

少子高齢化が叫ばれてかなり年月が経つが、それを解消することは簡単ではない。私の周囲では札幌は住みやすくてよいのだが、若い人にとって魅力的な仕事が少ないなどという話をよく聞く。単純に考えると札幌に住む若い人を増やし、高齢者の割合を減らせば少子化高齢化の中の高齢化は避けられ平均年齢が下がる。つまり、例えば若者と称される大学生の卒業後の就職先を札幌にとどめることができれば高齢化率を低くすることは可能である。それでは実際に大学生は札幌もしくは道内にとどまらず道外へ流出しているのだろうか。その点について、一部の大学生の地区別就職状況を調査した。総合大学である北海道大学が札幌市の大学生の人数としては一番多いが、学士の就職先は約 63.0%、修士においては 84.2%の学生の就職先が道外であった（図 1）。また、札幌市立大学（図 2 左）、北海道科学大学（図 2 右）などについては学部によって差はあるが札幌市内を就職先に選んだものとそれ以外はおおよそ半々であった。



出所：「北海道大学概要」



出所：「北海道大学概要」

図 1 北海道大学の地区別就職状況（平成 29 年度）上は学部卒，下は修士卒である。平成 30 年度以降は地区別データを公表していない。

また、札幌市立大大学 デザイン学部においては札幌市内が 41%、道外が約 41%で同程度であり、北海道科学大学では学部ごとにばらつきはあるが、札幌市内が 49%、道外が 35%であった（図 2）。

札幌	28名	40.6%
道外	28名	40.6%
道内（札幌以外）	13名	18.8%
合計	69名	-

令和3(2021)年度卒業生の地域別就職先

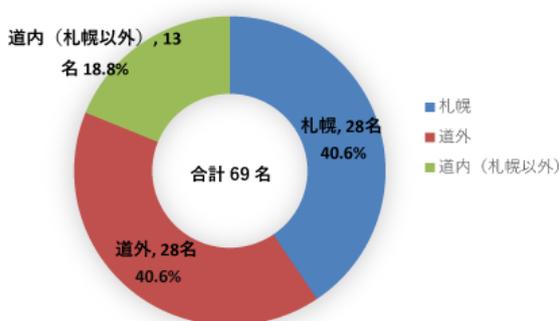


図 2 札幌市内の大学の地区別就職状況（令和 3 年度）
左は札幌市立大学，右は北海道科学大学のデータである。

北海道大学については道外からの入学者が多いという点も就職先を道外に決めた理由の一つであると推測されるが、修士以降の学生が 8 割以上札幌を離れている点は見過ごすことはできない。また、よく言われることでは札幌（もしくは北海道）に残りたいのだが就職先がないという学生の声である。つまり、若者を大学生と位置付けると何らかの理由で就職の時期に札幌を離れるということは明らかと言える。また、若者のみならず仕事が増加すると仕事の選択肢が増え、札幌に居住する人が増加するということは推測可能である。

2. 先行研究及び研究背景

地域創成を掲げる国の施策では地域の魅力を引き出し、産業を作る

ことがその地域の活性化や少子高齢化に歯止めをかけるという報告は多々ある。最近の傾向は、箱もの（ハード）を作っていくことからソフト面の充実で地域の魅力を積極的にひきだす方向へ移行している。地域以外に住んでいる人の外部から、つまり札幌であれば東京からのデザイナーなどによるソフト面の提案ではなく、そこにいる地域の住民の参加型（蓮見, 2009; 松屋, 2017 et al.）が望まれている。または地域創成産業を観光戦略と仮定すると、単なる海外の旅行客という文化差を考慮しない紋切り型のインバウンド戦略ではなく対象国を深く知ったうえでの提案(中山&小山田他, 2017)が一層必要になっている。本研究対象は、札幌市内の中でも今後高齢化率がもっとも高くなると予測されている南区をモデル地区（図 3）とし施策を検討する。その理由としては、札幌市南区には冬季札幌オリンピックの会場となったアイスアリーナや選手村となった五輪団地がある。また地理的には自然環境に恵まれているため、南区アーティストファイルによると、このデータがすべてではないだろうがデザインを生業としている市民の人数が他の区と比較すると行政に把握されており、人数も多く整理されている。そのため、住民が地元を盛り上げようとする意識も他の区に比べ高く、今年度は札幌市の区政 50 周年であるため、各区でイベントを行う予定があると推測できるが、その中でも特に南区では大々的に準備を行い、9月3日から25日まで南区内の会場で多数のイベントを行う予定である。つまり、このような住民参加型のイベントが催されている南区を魅力的な街づくりの見本としていくことを本論文では提案する。

3. 方法

目的 南区の少子高齢化率を下げ、移住促進をするための方法を検討することを目的とする。

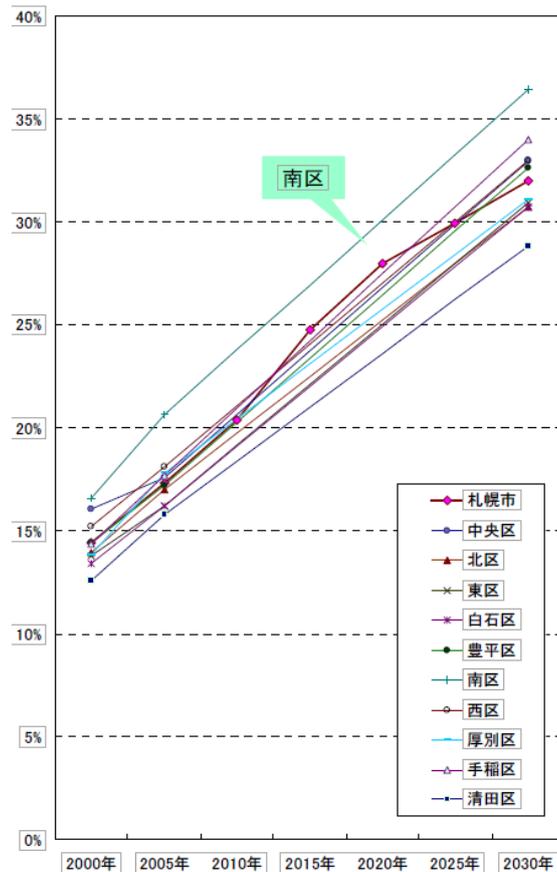


図3 札幌市内の区別高齢化率の推移

3-1. 施策の前提

他の区のデータがないため単純には比較はできないが、南区はアートを生業としている人のデータがきちんと整理されている。また、区としても南区をアートの地区という位置づけをしたいという方向性が見受けられるため、このように住民の参加意識の高い南区であるが住民主導のみならずアートに関する他の施策も提案してみたい。第1には五輪団地の活用である。現在真駒内付近にあるURが管理を行っている五輪団地であるが、高層階にはエレベーターがないため高齢になると住みづらいという話がある。今回URの賃貸サイトによって検索した際には、空き住宅は高層階の一室のみであったが、例えば、デザイン、建築系やIT系の仕事をもつ若い世代に高層階を貸し出すまたは、その中の1棟丸ごとデザイン村を作るということを提案したい。なぜなら

デザインや建築系の大学の学生が札幌市南区には札幌市立大学，東海大学，北海学園大学がある（図4）。真駒内近辺であればそこに居住をして大学に通いやすいし，お互いのデザインや建築の知識を認め合い，話し合って切磋琢磨できる。つまり，お互い同じ志を持つ人がより高みを目指せる可能性があり，デザインの質や相互作用が生まれ新しい作品の創作活動の端緒になることが推測できる。いわば現代版トキワ荘（藤子不二雄や手塚治虫などが住んだ東京都内の住宅。お互いにできた作品を渡したり意見を交換したりしていた）もしくはパリにあった洗濯船（ピカソやシャガールなどの画家や詩人なども住みエコールドパリなどの芸術の流れを作るための重要な拠点となった）のイメージである，これらの活用方法を用いて五輪団地の遺産を存続し，将来的に活用していく。

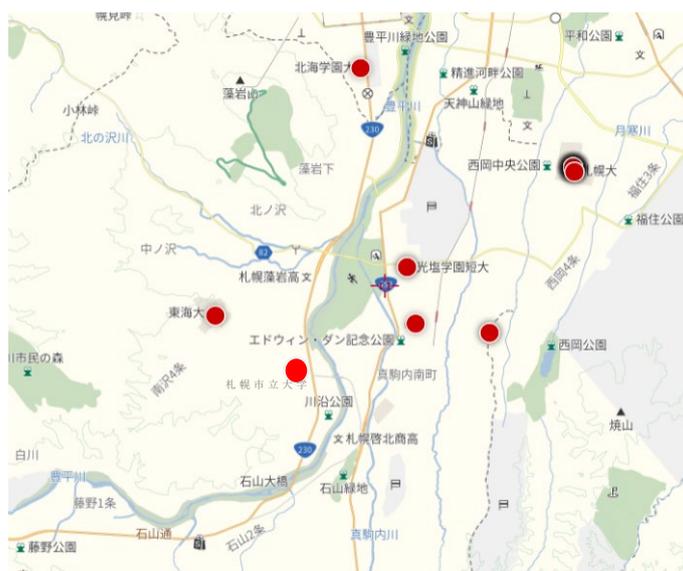


図4 南区における大学の位置

第2には芸術の森近辺にデザイン村を造成し移住促進の足掛かりとする。これは，第1の施策をさらに推し進め，デザインなどの生業としてあるアーティストの仕事場を供給する場所づくりである。また，南区は札幌市内の中でも広大な土地が格安で手に入る地区のため，職住を近接させることも可能である。また，札幌芸術の森というアートを気軽に触れあることができる場所があること，また自然からアート創作のイメー

ジを喚起することはアーティストとしては重要である。おりしもコロナ過で東京一極集中の考えが見直されている。この研究の論点からは少し離れるがデザイン以外の仕事でもオンラインを中心とする仕事に従事している人ももちろん移住可能の可能性がある。これらに関しては、土地の利権や不動産に関する事なのでぜひ調査して検討していただきたい。第3にデザインコンペの実施である。南区に住んでいるデザインを生業とする人のみならず全国にアートの街として認識してもらうために、数年に一度デザインコンペを開催することを提案したい。例えば南区の住宅街や公園などを使用した架設展示（インスタレーション 以後この表記とする）を主体とした展示を全国から公募する。真駒内駅周辺には半径1 km内に30か所も公園があり（図5）、その中やもしくはその周辺をつなぐ歩道などに安全な距離などが保たれた状態の箇所を展示箇所として指定する。インスタレーションはもともと場所があつてのものなので、公募に応募する作者が事前に南区へ訪れることや架設展示を行う際にもその地域に滞在することが見込まれる。また、周辺の子供たちは通学途中にアマやプロを問わない作家が作品を制作しているのを目の当たりに見ることができる。このように、地域に子供が少なくなり遊ぶ人が少なくなった公園や通りなどもその時期だけは息を吹き返し、さらにこの付近に住みたいという人も増加するのではないか。これにより全国に札幌市南区がデザインを重視している場所と認識され移住者へのアピールにもなる。第4に空き家住宅の活用である。これは、第2についての具体例であるが現在、真駒内や芸術の森地区よりはやや奥に入るが簾舞や定山溪方面では家を手放す人が増えているという話がある。例えば北海道教育委員会の令和4年度5月の報告によると、定山溪中学校は札幌市内では最も在校生生徒数が少なく、また普通学級の中では在校数の少ない10位以内に南区にある定山溪中学と札幌市南区の簾舞中学と常盤中学を含めて3校が名を連ねている。中学校。自然環境のあふれる場所で落ち着いた制作活動や刺激を受けることが可能である。



店舗名	TEL	真駒内駅からの距離
1 真駒内五輪記念公園		384m
2 いぶき公園		466m
3 緑町公園		509m
4 桜公園		531m
5 上町公園		553m

図5 真駒内駅周辺の講演の位置 マピオン地図より

第5に美術館などへの観光客や移住者のリピータの来訪誘導である。観光の楽しみ方が体験型へシフトしている今、美術館で制作活動をしてもらい、帰った後に作品を自宅で手に取ってもらうことが観光客への体験型旅行の目玉となりうる。札幌芸術の森においても絵付け体験や陶芸体験など日常的に行っているがさらに海外からの旅行者のニーズに合わせた体験を考えていくことも重要であろう。また、札幌芸術の森の屋外エリアには無償の彫刻解説ボランティアがいる。ボランティア活動が始まった30年前は、中央バスによる支笏ロマンコース（羊ヶ丘～札幌芸術の森～支笏湖～千歳空港を移動する観光コース）という空港までの帰り道に札幌の主たる場所を回るバスの運行があった。その際には、希望者のみであったが彫刻解説を聞いて千歳空港へ向かった観光客も多かった。アートの街という意識づけを強く行った後には、観光都市京都などのようにボランティアを有償化することでボランティアも少ないながらも金銭を取得する就労者となりうる。実際、旅行代理店が札幌南区の石山緑地や札幌芸術の森などのツアーを通訳案内士の方と企画し

た際はとても好評だったが、逆になぜ無償なのか？有料の説明員でもよくはないかという疑問を旅行会社の方から呈されたこともある。現時点では観光客の人数も少ないため無償のままでよいが、将来的にボランティア活動の継続を考えるには有償化し、さらに良質な彫刻解説ガイドの育成というのも一つの考えであろう。また昭和世代と違い、サービス残業などを極端に嫌うZ世代ではボランティア活動には報酬をきちんと払うことが大切なことかもしれない。

ここまで施策の前提の5つのポイントを説明してきたが、この中の第3を中心に南区をアートという切り口で地域を活性化する方法を具体的に考えてみたい。

3-2.

札幌市南区をアートの街として道外から各地から認識してもらうには公募のデザインコンペを行うことを提案する。その具体的な実施方法をこれから説明したい。

3-2-1. 計画の立案

デザインコンペを開催するにあたり日程、お金や場所の確保については札幌市などの行政が行う。そして開催する準備委員についてはコンペを開催するためのプロのみならず、南区真駒内駅に住む人、札幌芸術の森美術館のボランティア、デザインで生計を立てていきたい大学生などを含める。しかし大学生のみが委員として参加をするのは敷居が高くなるため、その大学生を在学している大学の指導教員などを委員に含める。例えばデザイン教育を推進している札幌市立大学の教員と学生が中心となり、インスタレーションを行う公園などの敷地の選定などから一緒に考えていくことも大学の授業の一環となりうるかもしれない(図6)。また、今回の公募の要件であるが、ただ単にアート作品全て応募が良いわけではなく、公園など野外に設置可能なその場所を活かしたインスタレーションとする(図7)。

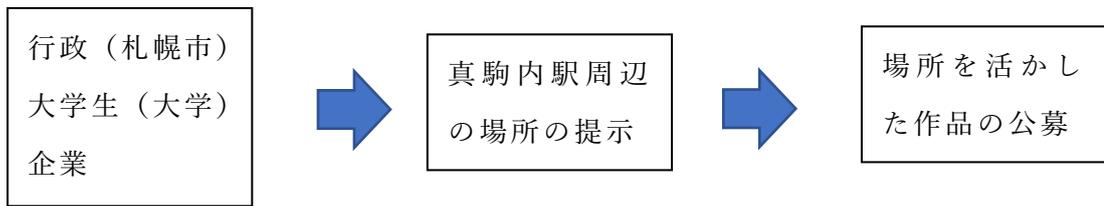


図 6 計画の立案の流れ

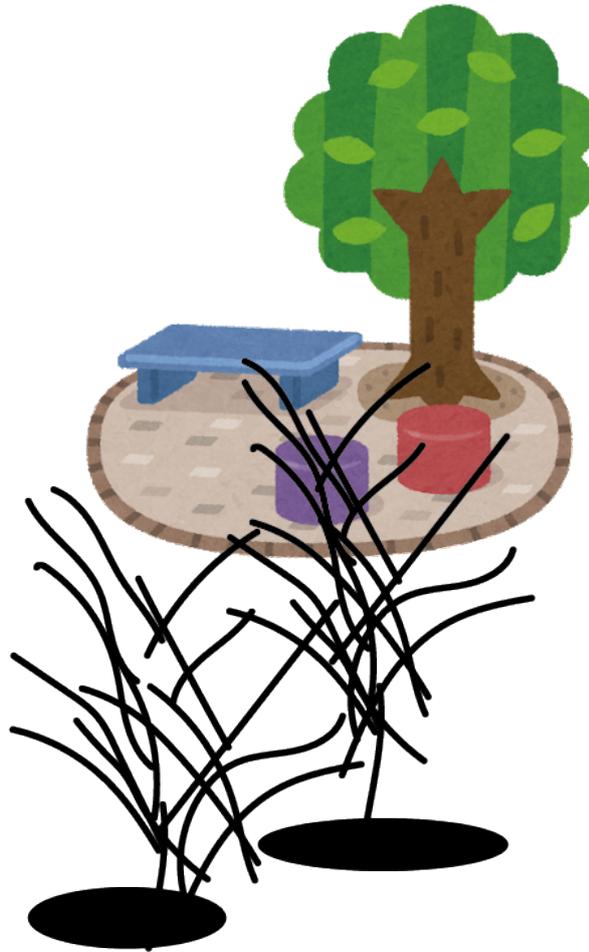


図 7 公園などにインスタレーションが設置された例（イメージ）

3-2-2. 公募の応募資格

応募資格を学生及び移住を検討するアーティストとする。この場所に基づいた作品作りを行うことや短期間でも滞在することによって札幌の魅力を感じてもらい作品作りに適した土地であることを納得してもらおうチャンスである。

3-2-3. 応募した方への移住等の宣伝

作品制作や設置のために札幌に訪れた人の中の希望者に対し、移住の促進の説明ツアーを組み、札幌市南区の移住可能箇所などを積極的に案内する。またこのツアーに参加して内容を SNS に挙げてくれた参加者には SAPICA を渡し、移動手段や市内の買い物に使ってもらう。

3-2-4. 公募の告知

札幌が世界に誇る初音ミクが街中でアートを制作しているイメージ動画やポスターを作成する。今やアートは単独のみならず、メディアミックスなど多様な手法があるため、それを活かした公募の告知を考えていく。

4. 結論

現在、区としてアートの街という意識づけがはっきりしていて、全区の中で高齢化率がもっとも高い南区をモデルとしてアートを通じた街づくりについて検討した。この施策により道外にアートを核とした魅力ある街づくりとして発信できれば、その先に産業の創出や移住の促進等の可能性につながる一歩であると考えられる。

5. 考察

札幌市内の各区にはそれぞれの歴史や特徴がある。そのためにはその区に住まう住民がその場所の良さを知り、外部にアピールしていくことが重要である。つまり、その区においても住民の意識の高まりや行政との協働で魅力的な街づくりをすることが可能となることが示唆される。また今回の提案では触れなかったが各区の取り組みに対して居住区以外の人を知る機会が少ない。清田区に住んでいる人が南区についての活動について知ることはほとんどない。理由としては札幌市の規模が大きいため、広報さっぽろなどは一部箇所が居住区の情報のページとなっているため、他の区のことを積極的に発信する媒体がない。これは SNS などを活用してフレキシブルに情報を伝えていくべきである。

6. 本研究の限界と今後の展望

今回は、実際に南区をモデルにデザイン分野の産業にかかわる人を増やすために何ができるかという提案を行った。しかし、これらは現段階では机上の理論であるため、実際に事業を行い、結果を調査しフィードバックしていくことが重要である。もし、南区において若者が定住し、仕事に就くことで札幌から離れる若者が減少する、または移住する可能性が明らかになれば、今後はほかの区でも別な魅力を発見し、それを産業に結び付けていくことが可能であろう。また今回は若者中心としたという考えであるが、この提案によれば若者以外でもデザインという特性を生かし移住促進という考えで南区に移り住んでもらうことで若者以外の 64 才までの働く世代の割合を増やすことが可能である。その結果として将来的には札幌市南区の少子高齢化率の減少に寄与することを明らかにすることができるかもしれない。

文献

札幌市統計区別高齢化率

www.city.sapporo.jp/sogokotsu/shisaku/sogokotsu.5jinkogensyo_syoshikoreika.pdf

2022-7-30 アクセス日

玉木欽也(2017). 地方創成プロデューサー 観光立国に向けた産学官連携事業の総合演出家 博進堂

中山政行・小山田大和・亀山秀雄(2017). 地域資源を活用したインバウンド戦略と地域ビジネスへの発展に関する研究, 国際 P2M 学会研究発表大会予稿集, pp11-18.

蓮見孝(2009). 地域再生プロデュース. 文真堂

北海道大学の学部卒地区別就職状況(平成 29 年度)

<https://www.hokudai.ac.jp/bureau/irfactbook/pages38.html>

2022-8-5
アクセス日)

北海道大学の修士卒地区別就職状況(平成 29 年度)

<https://www.hokudai.ac.jp/bureau/irfactbook/pages40.html>

(2022-8-5
アクセス日)

札幌市立大学平成3年地区別就職状況
<https://www.scu.ac.jp/department/carrier/design-4/2022-8-5> アクセス日

北海道科学大学平成3年地区別就職状況
<https://www.hus.ac.jp/recruit/data/2022-8-5> アクセス日

北海道教育委員会 令和3年度 北海道学校一覧 中学校の部/2022-8-13
アクセス日

<https://www.dokyoι.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ksk/chousatoukei/gakkou-ichiran/2021gakkou-i.html>

真駒内駅（北海道札幌市南区）周辺の公園・緑地一覧 マピオン電話帳
<https://www.mapion.co.jp/phonebook/M04010/01100/ST20533/> 2022-8-25
アクセス日

松家新治(2017). 地方創成政策の動向と今後. 計画行政,40,(2),pp27-32.
南区アーティストファイル

https://sapporo-minami-artfes.jp/artists-file/?fbclid=IwAR1a1kiPFqngZi-9A_f817SikKUHeIaS3PyH1W_ewbWGkB_Y84a7oZug64/ 2022-7-25
アクセス日

南区区政50周年イベント
https://sapporo-minami-artfes.jp/event-program/?fbclid=IwAR04-e6yGQ9-oCNgXqcn_9vPVPexWZgGIfcBmDpvNdTrJO8li3js5IKM25I/ 2022-7-25
アクセス日